

4 AL型授業実践報告

6) 芸術（美術）

本校の芸術に関するカリキュラムは、1年次に音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰの3科目から1科目選択し2単位履修、3年次に進路に合わせ音楽Ⅱ・美術Ⅱを選択し2単位履修できるようになっている。

【H27年度1年生 芸術の選択状況（全230人）】

	音楽Ⅰ	美術Ⅰ	書道Ⅰ
男	42	22	55
女	49	41	31
計	81	63	86

ここ数年、書道選択希望者が多くなり、美術選択希望者が減少する傾向にある。この傾向は本校だけではなく、3教科選択制の高校では同じような傾向がみられる。また、男女の人数比率をみてみると、音楽は男女の差は

あまりないが、美術は女子が多く、逆に書道は男子が多くなっている。また、クラス編成により、クラスによって人数、男女比の差が生じている。やむを得ないこととはいえ、同じ内容の授業に取り組む上では、授業展開が難しい状況であり指導の工夫が必要である。

以下に美術の実践事例を紹介する。

a) 実践授業の概要

①題材 鉛筆で描く共同作品制作

②目標

- ・クラスの仲間と話し合いテーマを決めて、一人一人の個性を生かしながら制作する。
- ・クラスで一つの作品に仕上げる喜びを味わう。

③評価の観点

- ・仲間とコミュニケーションを図りテーマ決定ができる。個人の作品の大切さを感じ、取り組むことができる。
- ・作品を鑑賞する中で、それぞれの価値観や表現の違いを味わうことができる。

④年間指導計画の中での題材の流れ

『鉛筆について』・鉛筆についての歴史・成分・製作工程等の知識を学び、理解する。



『鉛筆デッサン』・鉛筆の特性を学び、表現に合わせた工夫ができる感覚を養う。

- ・モチーフをじっくり観ることの重要性和じっくり取り組むことの大切さを感じ取る。



『鉛筆で描く共同作品制作』

⑤内容と授業展開

題材説明（教員）

鉛筆を主体描画表現とし、モチーフは体の一部+自由とする。テーマと自由モチーフはクラス内で話し合いのもと決定する。作品は生徒一人一人がB4サイズ画用紙に制作し、それを一つに繋ぎ合わせて一つの大きな作品とする。

クラスリーダーを選出し、リーダーは企画書（下記プリント）に決定した内容をまとめ、

提出。

グループでの話し合い（1グループ生徒3～6人の3グループを形成）

グループリーダーと書記を選出し、グループ（美術室は大きな机の塊が3つできているため、その塊でグループを形成）で意見を出し合い、構想ワークシート（下記プリント）に記入。

グループ発表（生徒）

グループリーダーがテーマやモチーフについて出た意見をクラス全体で発表。

クラスでの話し合い（生徒）

リーダーを中心に話し合いを重ね、クラスとして作品のテーマとモチーフを決定。生徒一人一人の描くパーツも話し合いで分担する。話し合いの形式は生徒に任せ、教員は見守る。行き詰った場合のみ、声かけアドバイスをした。

テーマ決定 企画書提出（生徒）

リーダーが前過程で決定した内容を企画書にまとめ、発表した後、教員に提出。

個別の作品制作

作品は各生徒個人一枚仕上げる。教員は、個別に技術的指導をする。本題材では制作中に、席を立ち歩くことを許可し、生徒同士で大きさ・濃さなどの描画方法の確認やアドバイスをしている。

作品の繋ぎ完成 作品鑑賞会・振り返り

黒板の一つに合わせて共同作品完成。個別の振り返りをまとめたものを発表し、作品を鑑賞する。



校内美術展覧会
共同作品展示の様子
（2月実施）

b) 生徒の感想

共同制作はほとんど経験がないようで、新鮮で楽しかったという声は多かったが、テーマから話し合い決めていく過程は、やはりクラスによって感想は様々だった。仲間とのコミュニケーションを図ることが苦手だったり、技術的に自信がない生徒は、個人制作の方が気が楽との声があった。鑑賞会で一つの作品になってみると、個人作品では味わえない

鉛筆で描く共同作品制作 企画書

リーダー名

「自分の体の一部+α」前課題の鉛筆セッションを生かし内容・技術・心積すべてをバージョンアップさせよう！

制作手順

1. テーマや内容のアイディアを小さなグループで出し合う。
2. クラス全員で話し合い、大きなテーマを決める。
3. そのテーマに合うモチーフとポーズを話し合い、一つの大きな作品としてまとめる。
4. 誰が、どの部分を担当するかを決定する。
5. 担当するところのセッションを生徒一人一人が真剣に取り組み。
6. 完成した一人一人の作品をつなぎ合わせ一つの作品にして完成！

●テーマ

[]

●イメージ・レイアウト

鉛筆で描く共同作品制作

班

グループ用構想シート 言葉・簡単なイメージイラストで書き記そう

とりあえず、こんな感じで～、これをいいかも！というアイディアをみんなまで協力して出し合うところの課題が軽くなる。
さあ、クラスの選抜者一人一人の個性を発揮していろいろな視点の発想が出せるといい！！

Blank space for group ideation sheet.

達成感と感動を感じたと振り返りで書く生徒が多かった。

〔生徒の振り返り 抜粋〕

今回美術をやった中で、人と作品を一緒につくるということを初めてやったのがおもしろかった。個人の作品だとまわりをあまり見てないから自分の視点だけしか作品をつくるのができなかったけど、共同作品にあることでまわりの作品を観察した。自分の作品により所を取り入れることができるから、お互いに成長できてよかったと思う。あのクラスで話し合いながら楽しく作品作りに取り組みれたのがよかった。

作業をするときの時間があつたけど、自分はけっこう話しを積極的にやるのができたり、準備の(道具)をちゃんと事前に用意してから作業できた。全体のバランスを気にしたり、考えたりするのが大変だったけど、その完成したときのレベルは高かった。だからすごくうれしかった。みんなそれぞれ色んなところから全体でみると色んなところがあった。中にはすごく大変なところもあった。最初は話し合いをスムーズにできなかったけど、そのうちには慣れてきた。やりたかった。

作業が終わってみると、自分のだけが浮いてるような感じがした。でも、やっぱり周りの気にせずにできる個人制作のほうがよいと思いました。

全体での作品を作るのは、話し合いをスムーズにこなし協力するべきだった。自分の考えをしっかりと伝えたいと思う。私はこのような共同作品は初めてやった。意見交換をするのは、まだみんな全体に決めたことを伝えたいから大変だった。個人作品を作った時と違って、全体で作品を作った完成したとき達成感があった。個人作品とは違う達成感だった。チームワークは、チームワークが大きかった。比較的簡単であり、難しい。個人の技術の差が、量も差があった。それは同じような感じは、良かった。描く範囲がおおかった。時間や絵のクオリティには、意識をすることが多かった。

描くことを楽しむはできなかった。

c) 成果と課題

美術の授業は元々AL授業だが、生徒同士で話し合うAL型形態は、事例が少ない。今回の取り組みは、本校生徒ならできると考え計画した。題材そのものを生徒達に考えさせることと、仲間の作品も意識して取り組む共同作品は、個性を大切に自己追求する個人作品よりも、さらに作品に対する多角的な力を身につけることが期待できる。

今回は、クラスによって差が出た。話し合いがスムーズで積極的な意見交換ができた上で決定したクラスもあれば、リーダーが困るほどシーンとして進まないクラスや一部だけで進めている感じのクラスもあった。後者のクラスには少しだけ教員が声かけや問いかけをしてきっかけづくりをした。作品制作過程で仲間を見て回り、自分の作品とのバランスを図ろうと積極的に動く姿も見られ、個人作品制作とは違った視点で進める力の重要性や必要性を生徒が知ることができる意味では効果があった。次題材から生徒間で作品についてアドバイスし合う姿が多く見られるようになったのも成果である。反面、他の作品との協調性をプレッシャーに感じたり、一つの作品にまとめると技術の差をより感じ、自信を失いがちになる生徒への指導が課題である。(文責：市岡)